「総合的な学習の時間」における探究のプロセスについての考察

－主体的な学びと課題設定との関係－

橋本　雅子（龍谷大学短期大学部）

【要旨】

「総合的な学習の時間」の実施から22年が経過し，各学校ではこれまでの蓄積から一定の定着がみられる。しかし，「総合的な学習の時間」は，単なる体験の場で終わっている，探究的な学習の場になっていない等の指摘もある。本研究では，児童生徒が主体的・対話的で深い学びから実社会においても課題を解決ししていくためにはどのような「総合的な学習の時間」にするべきか。探究的な学習のプロセス【課題設定】⇒【情報の収集】⇒【整理・分析】⇒【まとめ・表現】に着目し，重要視されているプロセスを明らかにすることで，主体的な学び（主体性）に導く指導方法を検討する。研究の方法としては，各学校の実践報告や質問調査から探究的な学習と主体的な学び（主体性）との関連を考察し，探究的な学習が形式的なものではなく，深い学びとなるための要素を課題設定との関連で明らかにする。調査結果では，学習の過程で大切にしているプロセスは，課題設定にあると回答した学校の中でも児童生徒が自ら課題を設定し，内発的な動機付けを高めている学校を取り上げ，主体的な学び（主体性）が同時に自ら問題を解決する深い学びとなっていることが明らかであった。本件研究は，この結果をもとに，児童生徒自身が，探究的な見方・考え方を働かせ，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくことができる「総合的な学習の時間」を指導者としてどのようにマネージメントしていくべきかについて提案するものである。

【キーワード】探究的な学習，主体的な学び（主体性），課題設定

Ⅰ　はじめに

今回の学習指導要領では「総合的な学習の時間」の目標において，「探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とし，特に，問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究的な学習が強調されたといえる。探究的な学習は児童生徒が日常生活や社会に生起する複雑な問題について，その本質を探って

見極めようとする学習であり，図１に示す【課題設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】の活動が発展的に繰り返される学習活動である。しかし，筆者は，この探究のプロセスを踏んでいても本来の探究的な学習とは言えないのではないかと疑問を持つ。『学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（平成 29 年）では，「学習過程を探究的にすること」と示されている。図１に示された学習過程で行うことは各学校において概ね理解されているが，その過程を探究的にしなければ，探究的な学習とは言えないのである。このような探究の過程の源泉には，デューイの思想が考えられる。デューイ（1975：204）『民主主義と教育（上)』（訳　松野）では，探究的な学習は，「問題→データの収集と分析→諸示唆もしくは観念の投機と精緻化→実験的応用とそれによって生じる推論もしくは判断」の４段階を探究過程とし，さらに第 11 章「経験と思考」においては，熟慮的経験の諸特徴として「問題」の前に「困惑，混乱，疑惑」を加え，「①困惑，混乱，疑惑→②推測的予測→③試験，点検，探索，分析→④試験的仮説の精密化→⑤実際に行い仮説を試す」と表現している。筆者は，文部科学省が示している「課題設定」がそれらの「問題」にあたると考えるが，この問題は，「困惑，混乱，疑惑」から設定されるものとすると，児童・生徒の主体性が最も重要な要素であると言える。デューイ（1975：259）は，また興味という観念の教育上の重要性について，「生徒に学習すべき学課をただ提示するだけでは，それだけ学習または研究という行為は不自然なものになり，効果のないものになる」と言っている。また，高階（1999：122）は，課題追究活動を問題解決学習の一種としたうえで，「課題追究活動は，一人ひとりの子どもが自分の課題を持ち，自分なりの手だてで課題解決に取り組む姿である。（中略）子どもの『やりたいこと発見』に導かれた学習行為は限りなく発展することもあると言えるのである。」と，問題解決学習の基本的な考えを示している。谷川（1995）は，「子どもが意欲的に学習に取り組むためには，子どもたちの中に反応が出てこなければならないと主張した。おもしろいな（興味），もっと知りたいな（知識），自分でやってみたいな（活動），こうすればいいのだな（方法）このような反応が子どもたち一人ひとりに生まれて初めて，意欲的に取り組むことが可能なのである」としている。そこで本研究では，探究的な学習の実践報告や質問調査から探究的な学習と主体的な学び（主体性）との関連を考察し，探究的な学習が形式的なものではなく，深い学びとなるための要素を課題設定との関連で明らかにする。

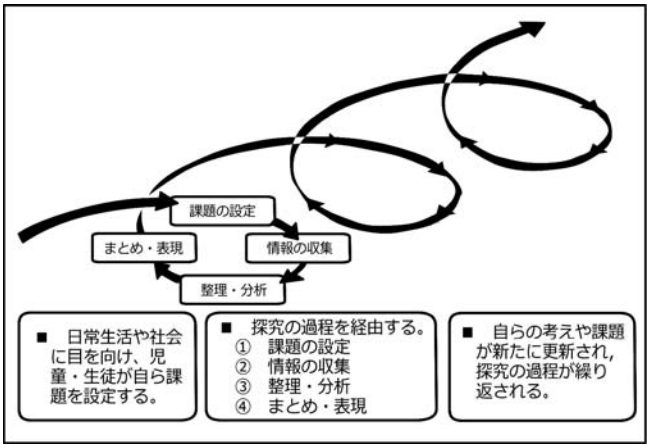


図１　探究における生徒の学習の姿（文部科学省，2017）

Ⅱ　目　的

「総合的な学習の時間」は，単なる体験の場で終わらせるのではなく，活動の内容を教科学習と結びつけ，子どもが主体的に学ぶ場として充実させることが求められている。そのためには，探究的な学習において児童生徒自身が課題を設定し，設定した課題に基づいて情報を集め，それらを整理・分析して課題解決することが重要である。「総合的な学習の時間」が始まった当初は，内容知より方法知重視で，自ら課題を発見し，自ら課題を解決する方法を学ぶ「学び方総合学習」として位置づけられていた点があった。しかし，現在は，そのプロセスと同様に教科との関連を持たせて内容知も求めている。文部科学省ではアクティブ・ラーニングと同義のものとして「主体的・対話的で深い学び」という言葉が用いられているが，この場合の「主体的な学び」とは「学ぶことに興味や関心を持ち，自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら，見通しを持って粘り強く取組み，自らの学習活動を振り返って次につなげる」と説明されている。しかし，この主体的な学び（主体性）は，言葉ではたやすいが簡単に行えるものではない。そこで，主体的に学ぶ場として位置付けられている「総合的な学習の時間」において，探究的な学習がどのように行われているかを質問調査により考察し，探究的な学習で重要視されている要素は何か，課題設定の方法，問題解決の方法等から主体的な学びに導くための方法を検討することを目的とする。

Ⅲ　方　法

(1) 調査対象　中学校　162校うち　回答が得られた56校

① 京都市立公立中学校　74校

② 全国国立大学法人附属中学校　76校

③ 教育雑誌等に紹介された学校　12校

今回の調査は，探究的な学習に取り組んでいると認識している学校をできるだけ調査対象に加えたいという趣旨で，京都市の公立中学校に加え，先行的に研究に取り組んでいる附属学校や教育雑誌に紹介された学校も調査対象とした。

(2) 調査方法

① 調査用紙の回答結果から考察

② 公立学校教員・附属学校教員からの聞き取り調査

(3) 調査内容（調査用紙の質問内容）

①「総合的な学習の時間」が探究的な学習になっているか。
　a. なっている　　b. なっていない

② 探究的な学習は，課題設定⇒情報の収集⇒整理・分析⇒まとめ・表現のプロセスの繰り返しと定義されていますが，最も大切なプロセスは何だと考えますか。
　a. 課題設定　　b. 情報収集　　c. 整理・分析　　d. まとめ・表現

③ 下記の取組で貴校にあてはまる活動はどれか。複数可
　a. 課題設定は児童生徒が決定している。
　b. 生徒は問題意識を持って課題を設定している。
　c. 生徒は興味・関心のあるものから課題を設定している。
　d. 生徒は教師が提示した課題から選択して設定している。
　e. 課題は教師が設定している。
　f. 情報は生徒が考えた方法で収集している。
　g. 教師が決めた方法で情報を収集している。
　h. 生徒は思考・判断を伴う整理・分析のプロセスを経てまとめている。
　i. 生徒は調べたことをそのままとめている。
　j. 生徒は，まとめたことを集団の前で表現・発表している。
　k. 表現・発表の場面で，質疑応答の機会を設けている。
　l. 生徒は表現・発表後に新たな課題を発見している。

④ 下記の課題設定の仕方で一番探究的な学習につながるものはどれだと考えますか。

a. 生徒が自ら自由に課題を決定する。
b. 生徒が自ら問題と感じている課題を決定する。
c. 生徒が自ら興味・関心のある課題を決定する。
d. 教師が教科との関連を考えて課題を提示する。
e. 教師が発達段階に応じた課題を提示する。
f. その他

⑤ 総合的な学習で最も大切にしている点は何ですか。(3つ選択)
a. 探究的な学習　b. 協同的な学習　c. 体験活動　d. 言語活動の充実　e. 主体的な活動
f. 各教科等との関連　g. 情報・メディア学習　h. 表現活動　i. その他

⑥ 探究的な学習において生徒の主体性は，どのような学習効果を上げていますか。(3つ選択)
a. 深い学び　b. 各教科の学習　c. 学校生活　d. 自己のキャリア形成　e. 思考力
f. コミュニケーション能力　g. 判断力　h. 人間関係　i. 情報力　j. その他

⑦ 貴校の「総合的な学習の時間」は，充実した学習になっていると思われますか。
a. 大変充実している　b. 充実している　c. 教科学習と比べて充実している
d. 充実していない

⑧「総合的な学習の時間」において生徒の成長が見られますか。
a. 大変成長している　b. わからない　c. 成長しているとは思えない

Ⅳ 結　果

1 質問調査結果から

(1) 質問①～⑧の回答結果

質問①「総合的な学習の時間」が探究的な学習になっているか。

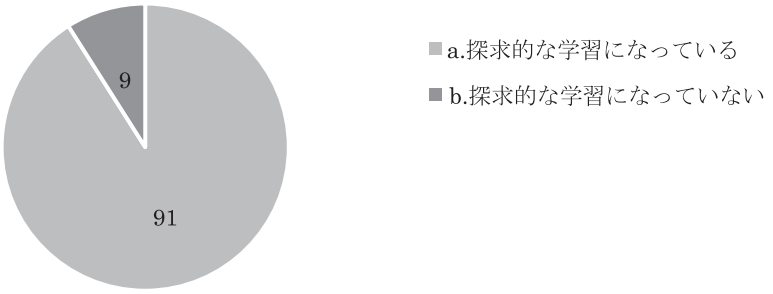


図２　調査用紙①の結果（筆者作成）

「総合的な学習の時間」が探究的な学習（課題設定⇒情報の収集⇒整理・分析⇒まとめ・表現）になっているかについては，回答があった学校の91％が「なっている」と答えている。

質問②　探究的な学習において，最も大切なプロセスは何だと考えますか。

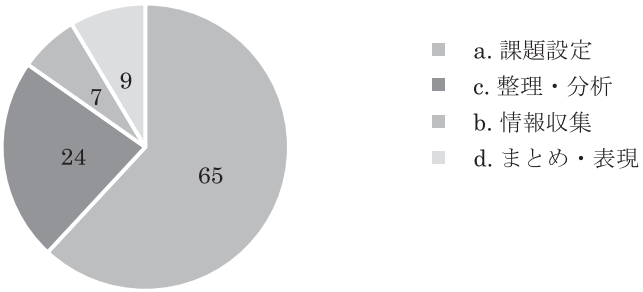


図３　調査用紙②の結果（筆者作成）

課題設定と答える学校が 65% を占めた。次いで整理・分析と答えた学校が 24% であった。

質問③　各学校の活動について　複数可

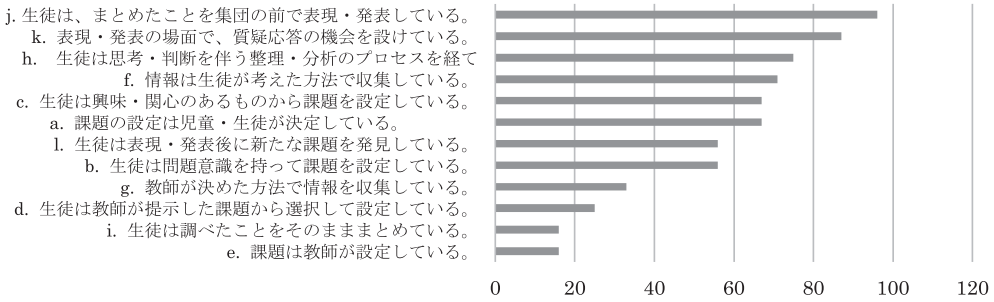


図４　調査用紙③の結果（筆者作成）

質問④　探究的な学習につながる課題設定の仕方

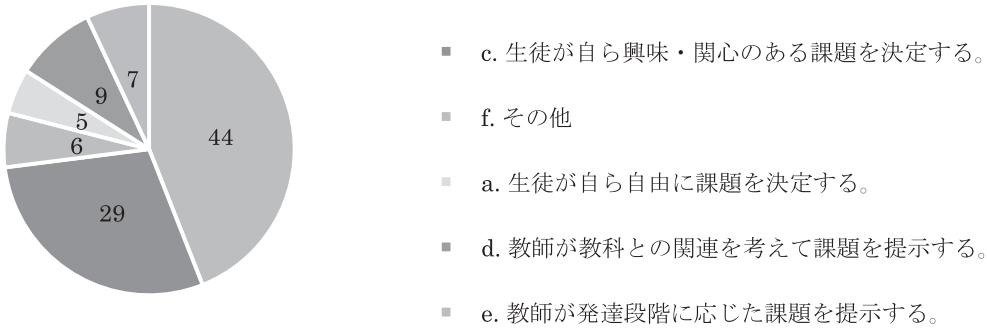


図５　調査用紙④の結果（筆者作成）

質問⑤　「総合的な学習の時間」で最も大切にしている点は何ですか。3つ選択してください。

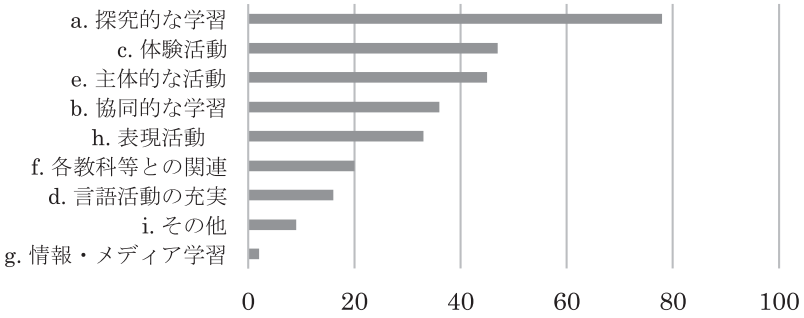


図6　調査用紙⑤の結果（筆者作成）

質問⑥　探究的な学習において生徒の主体性は，どのような学習効果を上げていますか。

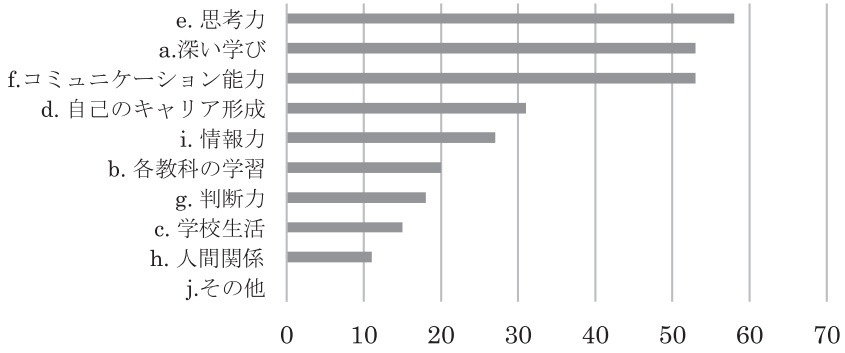


図7　調査用紙⑥の結果（筆者作成）

質問⑦　貴校の「総合的な学習の時間」は，充実した学習になっていると思われますか。

大変充実している・充実しているが85%である。

質問⑧　「総合的な学習の時間」において生徒の成長が見られますか。

大変成長している73%，わからない22%，成長していると思えない2%

(2) 主体的な学び（主体性）と課題設定に着目した回答結果

• 質問②と質問③の回答から

「総合的な学習の時間」が探究的な学習になっていると回答した50校のうち，課題設定が最も大切であると回答した学校は64%であった。そのうち**1校を除いて，**課題の設定において児童生徒が決定している。

• 質問④と質問⑤の回答から

課題の設定を児童生徒が決定している（問題意識を持って課題設定をしている・興味・関心のあるものから課題設定している　を含む）学校の69%が探究的な学習において主

体的な学び（主体性）を重視している。

• 質問⑤と質問⑥の回答から

主体的な学び（主体性）はどのような学習効果を上げていますか。について課題設定が最も大切であると回答した学校32校のうち，思考力と回答した学校は，72%，深い学びと回答した学校は，69% である。

2　口頭質問・実践から

①探究的な学習になっていないと回答した学校で，課題設定が大切だと回答した学校からの回答理由

> 探究的な学習において，まず大切なのは生徒の主体性だと考えます。「もっと知りたい」「なるほど，おもしろい」という気持ちがあってこそ，探究は深められるものであり，主体性がなければ，そのような気持ちを持つことは出来ないと思うからです。生徒が自ら興味・関心を持って課題設定すること，それが難しいなら，生徒の探究意欲を喚起するような課題設定を指導者が提示すること，それがなければ学習を深めていくことは出来ないと思うので，課題設定が大切だと考えます。

②探究的な学習になっていると回答した学校で，深い学び・思考力の点で効果を上げていると回答した学校の回答理由

> これまでの経験から，生徒自身が学習意欲をもって課題を設定し取り組んだ場合，課題解決に必要な情報収集や分析のプロセスをこちらが指示しなくても自ずと計画的に取り組むことができる。そのためには，大きすぎない課題，課題設定に時間をかける，事前調査をするなど課題設定前の教員のマネージメントが大切であると考えます。

③探究的な学習になっていると回答した学校で，教師が課題を提示していると回答した学校の回答理由

> 今日的な課題や教科と関連する課題の設定は，生徒自らが考えるのは難しいので，教員，（学校・学年）が設定する。例えば，修学旅行で沖縄に行く場合は，「平和学習」を「総合的な学習の時間」のテーマとする。
>
> 職場体験学習を総合的な学習の時間で行っているので，「自分の生き方」をテーマに学習を進めている。

Ⅴ　考　察

1　探究的な学習で最も大切であると考えるプロセスの結果から

調査①の結果からは，探究のプロセス【課題設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】について，各都道府県が手引き書等の配布やガイダンス等で周知していることが伺われる。「なっている」の回答数については，筆者の予想をはるかに超えていた。調査②の結果からは，探究的な学習の過程で最も大切な要素は，課題設定であるという回答が 65% で最も多かった。課題設定と主体的な学び（主体性）との関係においては，課題設定を児童・生徒が決定している学校（「問題意識を持って課題設定をしている・興味・関心のあるものから課題設定している。」を含む）の 69%（18 校）が探究的な学習において主体的な学び（主体性）を重視している。また，主体的な学び（主体性）はどのような学習効果を上げていますかの問いについて課題設定が最も大切であると回答した学校 32 校のうち，思考力と回答した学校が，72%（19 校），深い学びと回答した学校が，69%（23 校）であることから，主体性を重視した探究的な学習においては，思考力・判断力・表現力の育成に繋がっていると言える。この結果から見ても児童生徒が自ら課題（問題）意識をもち，自らの意思で学習することが大切であることがわかる。しかし，生徒が自ら課題を持つためには，教師はただ待つだけでは先に進めない。ベネッセの調査では，指導者の 4 割が課題設定に問題を感じている。探究的な学習では児童生徒が日常生活や社会に生起する複雑な問題について，その本質を探って見極めようとする学習であると言われている。あくまでも児童生徒自身の疑問や関心に基づいて課題を見つけることが大切ではあるが，そのための指導者の意図的な働きかけはどのようにすべきなのだろうか。口頭調査で探究的な学習になっていないと回答した学校が，その原因とも取れる理由を示している。主体的な学習は，「なぜなんだろう」「もっと知りたい」「なるほど，おもしろい」からはじまる。児童生徒の疑問・興味・関心等に関係なく与えられた課題の場合，「めんどう」・「やらされている」・「おもしろくない」という思いが児童生徒に生じる可能性があり，主体的な学習は成立しない。同時に教師も「総合的な学習の時間」のマネージメントに負担を感じ「めんどう」と思えば「総合的な学習の時間」の目標は達成できないのである。再度確認すると，総合的な学習の時間で大切なことは，児童生徒自らが学習課題を見出し，追求することである。そのためには，自発的に取り組むための内発的な動機付けが必要であり，児童生徒のモチベーションを高めるための方策を考えなければならないので

ある。

2　教育的に価値のある諸課題

文部科学省は，「内容として，目標の実現のためにふさわしいと各学校が判断した学習課題を定める必要がある。この学習課題とは，例えば，国際理解，情報，環境，福祉・健康などの横断的・総合的な課題，生徒の興味・関心に基づく課題，学校の特色に応じた課題，職業や自己の将来にかかわる課題などのことであり，横断的・総合的な学習としての性格をもち，探究的に学習することがふさわしく，そこでの学習や気付きが自己の生き方を考えることに結び付いていくような，教育的に価値のある諸課題のことである。」と示している。

ここで示している教育的に価値のある諸課題は

①　国際理解，情報，環境，福祉・健康などの横断的・総合的な課題

②　生徒の興味・関心に基づく課題

③　学校の特色に応じた課題

④　職業や自己の将来にかかわる課題

であるが，①の横断的・総合的な課題については，児童生徒自らが考える課題となりえるのだろうか。「最初に子どもありき」を基本原則にする場合，課題やテーマは子どもの求めに基づいて決定される。学習課題は学ばなければならないものではなく，常に生徒が何をどのようにしたいのかが重視され，生徒が求めている学びとなる。この場合，今回強調されている「各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け，実社会・実生活において活用できるものとする」という目標は達成できるのだろうか。国際理解，情報，環境，福祉・健康等は教科横断的な課題であるが，一つ一つ大切で考えなければならない課題である。筆者は，発達段階やその時代の今日的な課題については，自由に扱うのではなく，必ず学習する課題として設定すべきであると考える。人類が生きていくうえで，教育的に価値のある諸課題は欠かせないのである。従って，各学校の裁量で学習課題や学習内容を決めることができる総合的な学習の時間においても必修の課題（社会的課題）と個別の課題（個人的課題）の両輪で課題設定をしていくべきであると考える。

3　実践例から

【佐賀大学附属小学校の実践より】

高階（1999：124）は，佐賀大学附属小学校を紹介し，そこでは学習課題の自覚を深めるについて「子どもたちが自ら感性でとらえるものを大切にし，学習集団の学び合いに自

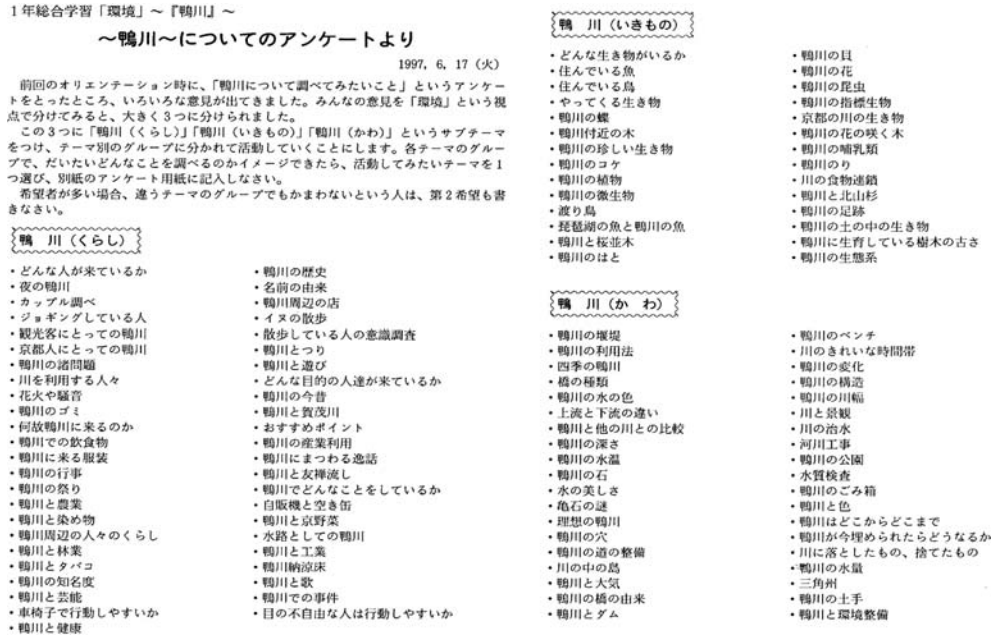
分らしさを発揮しながら参加していくことを学びと捉える。」としたうえで，「児童の学習意欲を持続させ，意識の連続を図るために学習の段階を『問題意識の増幅（認識・意味づけ)』『問題点の構築・再構築（整理・統合・比較・修正)』『問題点の提言・提唱（表現)』『問題点を解決する方法の模索（変革・再認識)』といった学習スタイルとして設定する。」と提案している。個々の発見した問題点を発表し，交流することで，問題点発見の方法や重要性が認識され，自らの問題点の再構築となるのである。提案の段階を踏むことで，思いつきの問題を全体に提案することで，軌道修正されるが，自己決定の意思は失われていないのである。筆者は，学習課題の吟味が大切な要素であると考える。

【京都教育大学附属京都中学校の実践記録より】

学習課題の吟味について，京都教育大学附属京都中学校の実践記録（1999）で紹介されている課題設定の方法（中学１年）に着目する。「環境」というテーマで各グループが地域の鴨川ついて調べる。どちらかというと，内容知より方法知重視で，学び方を学ぶ学習になっている。課題設定においては，以下のプロセスを経て，各グループの課題を設定している。

① 鴨川について学習するにあたりどのような課題（テーマ）で調べたいか一人一人に調査する。（何に興味があるか，何が問題と考えているか等の事前調査）
② 事前調査の結果を把握
生徒が自ら考えた課題には，今後の見通しが立たないもの，テーマが大きすぎて絞り切れてないもの，現実の学習環境では難しいものなどが含まれる。
③ 指導者が整理をし，領域（中テーマ）３つを提示する。
A．鴨川の生活　B．鴨川の生き物　C．鴨川の自然（水）
④ 生徒自身が考えたテーマは三つの領域のどこに当てはまるかを考える。生徒自身が設定した課題（テーマ）を尊重する。
⑤ 生徒自身が考えた課題（テーマ）を分類し，領域（中テーマ）を選択する。
同じ領域で興味・関心をもったテーマに近いもの同士が意見交換しグループを編成する。
⑥ 再度，それぞれのテーマをグループで再検討し，テーマを決定する。（再構築）

事前調査（生徒へのアンケート）では，次のような課題が提示された。



1年総合学習「環境」～『鴨川』～

～鴨川～についてのアンケートより

1997．6．17（火）

前回のオリエンテーション時に、「鴨川について調べてみたいこと」というアンケートをとったところ、いろいろな意見が出てきました。みんなの意見を「環境」という視点で分けてみると、大きく３つに分けられました。

この３つに「鴨川（くらし）」「鴨川（いきもの）」「鴨川（かわ）」というサブテーマをつけ、テーマ別のグループに分かれて活動していくことにします。各テーマのグループで、だいたいどんなことを調べるのかイメージできたら、活動してみたいテーマを１つ選び、別紙のアンケート用紙に記入しなさい。

希望者が多い場合、違うテーマのグループでもかまわないという人は、第２希望も書きなさい。

鴨　川（くらし）

・どんな人が来ているか
・夜の鴨川
・カップル調べ
・ジョギングしている人
・観光客にとっての鴨川
・京都人にとっての鴨川
・鴨川の諸問題
・川を利用する人々
・花火や騒音
・鴨川のゴミ
・何故鴨川に来るのか
・鴨川での飲食物
・鴨川に来る服装
・鴨川の行事
・鴨川の祭り
・鴨川と農業
・鴨川と染め物
・鴨川周辺の人々のくらし
・鴨川と林業
・鴨川とタバコ
・鴨川の知名度
・鴨川と芸能
・車椅子で行動しやすいか
・鴨川と健康
・鴨川の歴史
・名前の由来
・鴨川周辺の店
・イヌの散歩
・散歩している人の意識調査
・鴨川とつり
・鴨川と遊び
・どんな目的の人達が来ているか
・鴨川の今昔
・鴨川と賀茂川
・おすすめポイント
・鴨川の産業利用
・鴨川にまつわる逸話
・鴨川と友禅流し
・鴨川でどんなことをしているか
・自販機と空き缶
・鴨川と京野菜
・水路としての鴨川
・鴨川と工業
・鴨川納涼床
・鴨川と歌
・鴨川での事件
・目の不自由な人は行動しやすいか

鴨　川（いきもの）

・どんな生き物がいるか
・住んでいる魚
・住んでいる鳥
・やってくる生き物
・鴨川の蝶
・鴨川付近の木
・鴨川の珍しい生き物
・鴨川のコケ
・鴨川の植物
・鴨川の微生物
・渡り鳥
・琵琶湖の魚と鴨川の魚
・鴨川と桜並木
・鴨川のはと
・鴨川の貝
・鴨川の花
・鴨川の昆虫
・鴨川の指標生物
・京都の川の生き物
・鴨川の花の咲く木
・鴨川の哺乳類
・鴨川のり
・川の食物連鎖
・鴨川と北山杉
・鴨川の足跡
・鴨川の土の中の生き物
・鴨川に生育している樹木の古さ
・鴨川の生態系

鴨　川（か　わ）

・鴨川の堰堤
・鴨川の利用法
・四季の鴨川
・橋の種類
・鴨川の水の色
・上流と下流の違い
・鴨川と他の川との比較
・鴨川の深さ
・鴨川の水温
・鴨川の石
・水の美しさ
・亀石の謎
・理想の鴨川
・鴨川の穴
・鴨川の道の整備
・川の中の島
・鴨川と大気
・鴨川の橋の由来
・鴨川とダム
・鴨川のベンチ
・川のきれいな時間帯
・鴨川の変化
・鴨川の構造
・鴨川の川幅
・川と景観
・川の治水
・河川工事
・鴨川の公園
・水質検査
・鴨川のごみ箱
・鴨川と色
・鴨川はどこからどこまで
・鴨川が今埋められたらどうなるか
・川に落としたもの、捨てたもの
・鴨川の水量
・三角州
・鴨川の土手
・鴨川と環境整備

このように課題設定にあたって事前調査を行い，生徒の興味・関心やまた問題に感じていることを把握したうえで課題を設定させる。しかし，教育的に価値のある諸課題（環境）にたどり着くには，程遠い課題（鴨川のアベック調べ・鴨川のベンチ等）も見受けられる。そこで，生徒自身の内発的動機付けを失うことなく，自らが設定した充足感を持たせることが大切なのである。教師が予め準備した授業案に従って学習するのではなく，与えられたテーマ（たとえば「鴨川の環境」）について，個々の生徒が平素，疑問に思っていることについて，それぞれ「それはどうしてだろう？」と考え，その仮説が理にかなうかどうか，自分たちで実地調査をして確認していく。この活動は，もし自分たちの仮説や考えが外れてもまた新しい仮説を立て試行錯誤のプロセスの中に，学習の目的があり，その過程そのものが学習であるというデューイの考えに基づいている。すなわち，最終的に答え・正しい解決に到達したかどうかよりも，むしろその過程を重要視する学習といえる。しかし，その出発点は，やはり課題設定にあり，過程を充実させる要素になるといえる。

筆者は，これまでの各学校の実践や口頭質問から，課題設定について以下の点を強調したい。

① 課題設定に十分時間を取る。

② 児童生徒の興味・関心は，どこにあるのかを事前に調査する。

③ 児童生徒の不安に思っていること，疑問に思っていること，問題に思っていること

を事前に調査する。

④　大テーマから小テーマ（児童生徒が取り組む課題）のイメージを持たせる。

⑤　必要に応じて取り組みやすい課題を提示して選択させる。

⑥　グループで学習する場合は，安易にグループでテーマを決めるのではなく，できるだけ，興味関心が同じメンバーが集まりテーマを決定する。

⑦　集団の画一的な発想ではなく個人の発想を重視する。

そして，さらに発達段階に応じたプロセスを考えるには，次の段階を経る。

①　教師が課題を設定する。

②　教師が示した課題から選択させる。

③　生徒自身が考えた課題を設定する。

この経験が，自ら課題を見つけ，解決していくための資質能力を育成すると考える。

Ⅵ　最後に

「総合的な学習の時間」において，課題は，問題をよく吟味して生徒が自分でつくり出すことが大切である。「はじめに内容ありき」ではなく，児童生徒の直接的な体験を通した課題が設定されることが望ましい。探究を重視した環境や条件を整えることが，「総合的な学習の時間」に教師が行うべきマネージメントなのである。浅沼（2008）は，方法かカリキュラムかを問う中で，「総合的な学習の成否は，何か特定のスタイルをとるだけでなく，その対象とする内容の価値が重要であることが明確になる。どのような形式も内容の価値を伴わない限り，ただの箱に過ぎない。」と表現している。筆者は，蓄積された実践に立ち返り，探究のプロセスの実現だけに終始していないか，課題の設定は，主体的な学び（主体性）に基づいているか再確認する必要があると考える。村川（2008）は，「教科学習や総合的な学習を問わず，子どもが目標や課題を設定し主体的に取り組んでいく学習においては『探究』は必然となる。」と述べている。主体的に取り組む姿からのみ探究的な学びが実現するのである。最後にキャッシーの「遊びの原則」を紹介する。

キャッシー遊びの五原則

①　遊びは楽しくなければならない。

②　遊びはそれ自体が目的であって何かほかの目的であってはいけない。

③　遊びは遊ぶ人の自発的な選択によるものでなければならない。

④　遊びは遊ぶ人が能動的にかかわらなければならない。遊ばせてもらっていたら遊び

ではない。

⑤　遊びは現実から離れたもので，演技のようなものである。子どもが何かのふりをしていたらそれは遊びである。

学習は訓練ではなく，遊びに近いものであるべきである。特に「総合的な学習の時間」においては，個人が設定する課題においても，学校や学年（教師）が設定する課題においてもそこに「主体的・対話的で深い学び」でなければならない。指導者は，子どもたちの可能性を信じて社会に生きる学習を保証していくべきであろう。

【謝辞】

この執筆にあたり，大変お忙しい中，質問調査にお答えいただきました各学校の先生方に改めて感謝申し上げます。

【参考・引用文献】

浅沼　茂（2008）『「探究型」学習をどう進めるか』「探究型学習は方法かカリキュラムか」教育開発研究所，16頁。

今井むつみ（2016）『学びとは何か』岩波書店，204頁。211-212頁。

京都教育大学教育学部附属京都中学校（1999）『中学校総合学習の実践報告Ⅲ』京都教育大学教育学部附属京都中学校研究会，97頁。

髙階玲治（1999）『総合的な学習の時間－自ら学ぶ力をどう育てるか』ぎょうせい。

谷川彰英（1995）『問題解決学習の理論と方法』明治図書，24-25頁。

デューイ（1975）『民主主義と教育』岩波書店。

村川雅弘（2008）『「探究型」学習をどう進めるか』「創造的に考える探究学習」教育開発研究所，46頁。

文部科学省（2017）「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm

studystudio 未来の教育／探究学習
https://studystudio.jp/contents/archives/39535